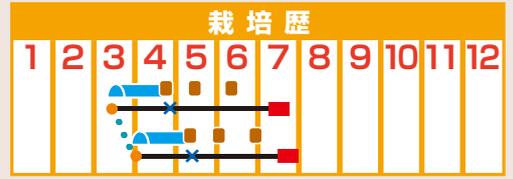




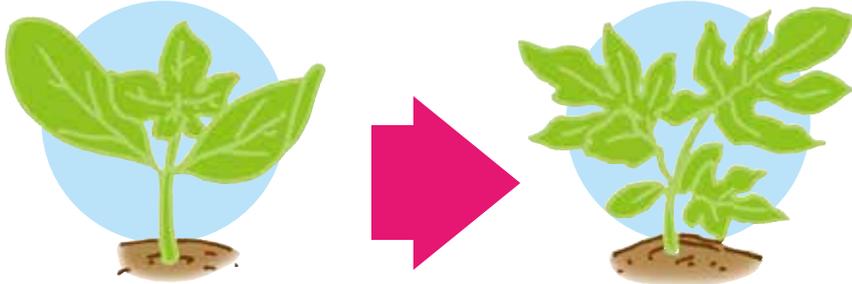
スイカの育て方

スイカは夏の風物詩として定番です。プランターでは小玉種の品種が作りやすく、よく出来ます。容器もとくに選ばず、土も標準のもので結構です。日当りのよい場所でそだてましょう。



●...タネまき ×...定植 ■...収穫
 ▲...ビニルトンネル ●...種まき適期 ■...肥料やり

育苗



3月中旬～4月上旬がタネまきの時期です。遅まきはオススメしません。収穫時期が真夏になってしまい大事な時期に樹が夏バテしまうからです。ポリポットに2粒ずつタネまきします。保温しながら育て、1本に間引きます。本葉3～4枚で株間23～30cmに定植します。市販の苗なら、病気に強い接木苗をぜひ購入してください。

容器	株数	植え方	一回の肥料
標準プランター	2	1条	20g
発泡スチロール箱	2～4	1～2条	40g
深型菜園プランター	2	—	15g
ジャンボプランター	4	1条	60g

【肥料】
定植時に元肥、以後20日おきに2回追肥。

【品種】
プランターでは小玉スイカが栽培しやすいです。「紅しずく」、黄肉「ニューこだま」など。

地這い栽培



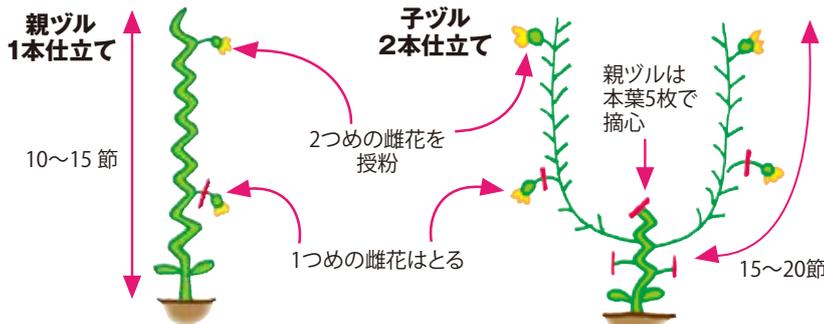
土量の多い容器栽培なら、親ヅルを本葉5枚で摘心し、子ヅルを2本伸ばし、それぞれの子ヅルに1果ずつならす。ヅルは誘引せず、よしずなどの上に自由に伸ばします。地這い作りの場合、過湿による果実の腐敗を防ぐため、敷きワラや発砲スチロールの切れ端などで座布団をします。

立ち作り栽培



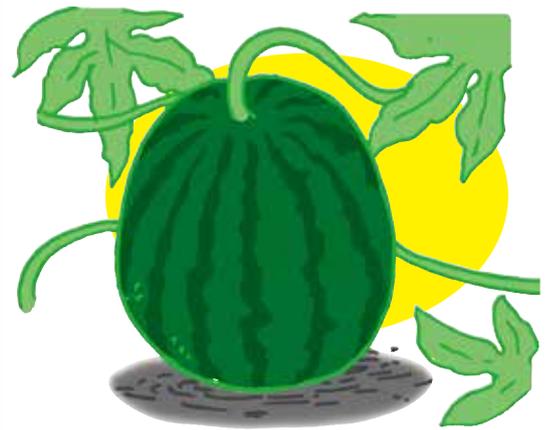
支柱を立て、ヅルをとぐろを巻くように誘引。9号鉢では2株を植え、親ヅルは摘心せず1本仕立てに。10～15節につく雌花に人工授粉して着果。落下防止のためネットで果実をつるす。

整枝・誘引 容器の大きさや、場所の広さに応じて工夫を



親ヅルを摘心せず一本仕立てにする方法と、親ヅルを本葉5枚で摘心し、その下から出る強い子ヅルを2本伸ばす二本仕立てがあります。土量の多い容器なら二本仕立てにし、着果させる果実を増やしてもよいでしょう。ヅルが這うスペースがあれば地這いに、なければ支柱を立ててあんとんのように立体的にとぐろを巻かせます。肥大させる雌花には必ず人工授粉を行います。肥料は元肥を含めて3回、定期的に施します。

収穫



7月中旬、授粉から約35日で収穫します。